

書名：愛《愛する愛と  
愛される愛》

著者：御木徳近

出版社：KKベストセラーズ

出版年月：1986年10月

総ページ数：269ページ

ISBN：4584300852



推薦者

草下實

鳴門教育大学大学院教授

～苦悩から救ってくれた本～

人は成長の過程で、多くの壁に行く手を阻まれる。苦悩の火中にあれば、これが火宅に生きる人の運命だなどと冷静に自己分析をする余裕すら見出せぬ。煩惱がある以上、これが世の常である。諸行無常なのだからいたしかたない。今の年齢になって、他人ごとのように悠長なことを言っているのかも知れない。

1970年は、小生にとって最も忘れがたい1年となった。失恋である。それも一方的なものであった。それでも女々しくも小生は、相手の女性をあきらめられずにもんもんとした日々が続いていたのである。小生はこの時の自分の精神状況を話す時は、“白旗を揚げても嫌いになれない程の恋”と説明する。その結果、半年間で身も心もボロボロになってしまった。何で？そんな時に御木徳近氏の著、「愛《愛する愛と愛される愛》」を手にした。御木徳近氏は宗教家である。しかし、その内容は宗教とは異なり、愛のあり方について書かれたものであった。その本の論点を示せば、「男性と女性の愛の形は異なる。男性の愛は愛する愛であり、女性の愛は愛される愛なのである。しかも両者ともその代償を求めない。」単純で、端的なものではあったが、何故か当時のわたしには、極めて説得力のある内容であった。その一節の言葉で、それまでの重く暗い霧が一瞬で晴れるように苦悩から脱し得た。全ての現実を受け入れ、相手の行為を許すことで自分自身が助かる。苦悩という重い課題に対する単純明快な解答が与えられた。人はそんなことで悩むなんて、という内容であっても、火中に居るものにとっては、笑ってられない真剣な悩みであることが多い。

一冊の本が人を救うこともある。だから、読書は大切ですよという意味ではなく、軽い気持ちで一度読んでみてはいかがでしょうか。お勧めするのは、そんな一冊です。

